

## 鼎談

### 高気圧酸素治療の診療実態 ～医療制度改革による第1種装置の使用現状～

石原 哲

医療法人社団誠和会 白鬚橋病院

【背景】医療制度改革により医療費が削減されている今日、高気圧酸素治療、特に第1種装置における診療報酬のあり方を明確にする必要がある。平成16年11月第39回の本学会に於いて民間病院103病院へアンケートを行い各施設の現状を調査し今後の考え方を調査した。保険査定は63%の医療機関が不合理な査定を受けており、当学会からの行政への働きかけが望まれた。また、安全な装置使用の基準は重要であり、かかる人員配置の人員費増が病院経営を圧迫し今後の課題となっていた。DPCの導入は非救急の治療の妨げになる可能性があり、診療報酬点数一元化等の抜本的な改訂を求める声が多く、エビデンスに基づくHBOの位置付けの明確化が必要とされていた。これら不安定要素から、関東においては第1種装置の廃止を考えている回答病院が目立った(16%)。一方、HBO治療に積極的な民間医療機関からは、当学会が他学会との連携を強くし医師に対するHBOの教育強化が望まれた。これを受け、当学会から、外保連へ新たな適応疾患の追加、またエビデンスに基づくHBOの位置付けなどを厚生労働省に提出した。

【目的】今回、第1種装置を有する医療機関に再度アンケートを行い、民間病院におけるHBO治療の今後のあり方を調査した。

【調査対象】東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県・群馬県で第1種を持つ医療機関

【調査対象期間】平成18年度のデータを基に調査

【調査内容】第1種装置保有台数、年間患者数、年間施行回数、入院及び入院外の施行人数、管理医の有無、臨床検査技師の有無、等を基礎データとし、今後DPCへの対応について、クリニカルパスにおける位置付け、また診療報酬の減収にともない設備の存続、さらに新たなスポーツ医学としての対応など、前回と比較検討し、動向を調査し報告する。

## 鼎談

### 包括医療における高気圧酸素治療のサバイバル戦略

川島真人

医療法人玄真堂 川島整形外科病院 理事長・院長

HBOTの非救急的適応の保険点数は200点であり、包括化されてしまう。このような中で、HBOTを施行する意義として次のようなことがあげられる。①Diabetic Foot や、軟部組織感染症の治療成績の向上や治療期間の短縮(入院期間の短縮に貢献)。②骨髄炎の治療成績の向上や再発率の低下(川島はMRSA感染骨髄炎を含む再発を、局所持続洗浄群のみの256例では23例9.0%、HBOT併用群263例では13例4.9%と報告)。③他施設からHBOTの紹介がある。④HBOTに期待を寄せる患者が集まる。等であり、HBOTを併用することで患者の満足度を高めることができ、患者及び他施設からも評価を得られるものと考えている。もちろんHBOTが救急・非救急を問わず1500点を請求することが可能となれば、包括化には含まれず、更に医療経営の面からも貢献できるものと考えられる。